



余念がない。

し班の奥さん方が、マキと釜での炊き出しに

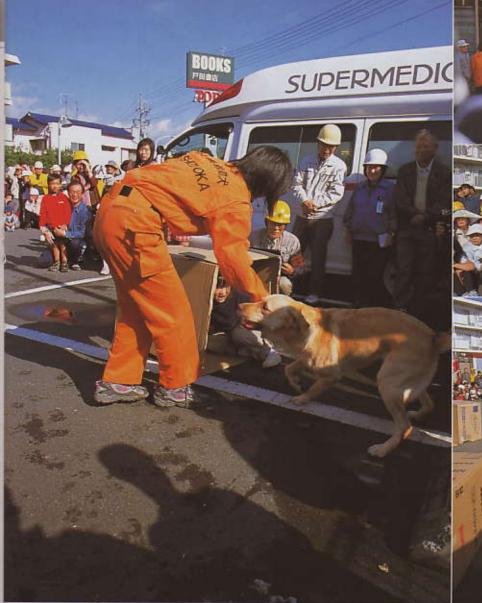
町内会では、地震を想定しての防災訓練が実 ら北に四キロメートルほどいった大岩二丁目 く。あわせて、それぞれ空き地では、 警備班が一軒一軒家をまわり、 人をのせ、 が毛布と物干し竿で即席に作った担架にけが 医療班による三角巾による応急処置、 火元に擬せられた発煙筒にまかれた。 では、消火器が出され、バケツに水が汲まれ、 だぞ!」の声が響きわたる。それぞれの火元 施された。 十一月十六日の日曜日、ここ静岡市の中心か 朝九時、 町内の九か所から、 救護所へと運んでいく。最後に、 確認をしてい 一斉に 救護班 一方、

また、地区の三か所では、消火班による放水訓練もあわせて行なわれた。各火元での活動が一段落すると、みんなは対策本部のある本屋さんの駐車場に集まってくる。ここでは、地元の東消防署の起震車も出動し、子どもたちが体験していく。そして、最後に、今回はじめて行なわれたのが、災害救助犬による救出のデモンストレーション。NPO法人災害救助犬静岡に所属するグーフィー号など五頭の救助犬が参加。並べられたいくつものダン

きのうの大雨がうそのように晴れあがった



設置などの簡単な工事、修理を行なう。輸送 成され、お年寄りの家の段差解消や手すりの 災員は九班を合計して五百六十人にものぼる 大工・左官・塗装業などに携わる人たちで構 ボランティアでは「こそくり会」になる。 ある。例えば、防災活動での救出班は、 福祉のボランティア組織を結びつけたことに なわれたもの。 炊き出し班、救護班などが編成され、その防 各班防災会には、情報班、救出班、消火班 という。そして、この班単位の防災訓練が行 れているが、この班単位に防災会を組織した。 も大きな町内会。九つの班に分かれて運営さ 八百三十世帯、人口は三千人を超える市内で 組織の改革に取り組んだ。同町内会は世帯数 とりがお客様ではなく、実際に訓練を体験で 拍手をする。当日の参加者は、およそ千人。 、こそくり」とは、ちょっと直すという方言。 きるようにしたこと。そのため、まずは防災 から「体験型訓練」への転換。参加者一人ひ きく変えた。一言で言えば、「見学型訓練 いく。そのたびごとに参加者は歓声を上げ るけが人にみたてられた子どもを探し出して ボールを順に嗅ぎまわり、その中に入ってい 同会のもう一つの特長は、この防災組織と 昨年、同会では、 防災訓練のあり方を大









■連絡先

〒420-0881 静岡市北安東 2-2-13 鈴木昭二 TEL 054-245-5977 「ザ・町内会」なのだろう。

所の人たちが見守り、

さらに、

災害時には避

お年寄りや障害者の人たちを、

も新たにはじめた。これは、身体の不自由な

火班は「温泉の会」に、といった具合である。

また、最近、「向こう三軒両隣救護活動

を担う。さらに救護班は「訪問看護」

36

班は「車で送る会」になる。お年寄りが病院

などに出かけるときに自動車で移送する役割